

第四次箕面市総合計画総括について

1. 第四次箕面市総合計画と実施計画

(1) 総合計画の構成

総合計画とは、地方自治体が特色や個性を生かしたまちづくりを推進するための基礎となる計画である。めざすべき将来都市像を定め、その将来像に向けた長期的なまちづくりの方向を示した市の最も基本となる計画で、現在、本市では、市の特性、資源、人材などを最大限に活用したまちづくりを進め、その魅力を高めていくため、第四次箕面市総合計画を推進している。この計画は、平成13年度(2001年度)から平成22年度(2010年度)までの10年間を計画期間として、基本構想、基本計画、実施計画から構成している。

基本構想

めざすべき将来都市像の設定、まちづくりの総合的な指針

将来都市像

人のあたたかさとかげがえのない自然を守り育てる都市“みのお”

【基本理念】人それぞれが個性を認め合い、性別・年齢・国籍・障害の有無等に関係なく、誰もが尊重し合って暮らすことのできる地域社会の形成を図るとともに、市民にやすらぎとおいをもたらしかけがえのない本市の豊かな自然を将来にわたって守り育て、次代に伝えていく。

ときめきと豊かな人生をつくりだす都市“みのお”

【基本理念】本市の歴史と地域に根ざした文化を発展的に継承しながら、多様な価値観と人の出会いを大切にし、人間的共感が得られる風土・文化の創造を図るとともに、変化し発展し続ける社会において、市民生活を豊かにするため、障害を通じて学習できる機会を創出していく。

安全で快適に暮らし続けられる都市“みのお”

【基本理念】市民・事業者・行政が、それぞれの責任と役割のもとで協働し、市民の健康と福祉を守り、資源の循環利用などを図りながら自然との調和を保った障壁のない安全で暮らしやすいまちづくりを進める。

基本目標

安心な暮らし

いきいきとした暮らし

暮らしを支える

基本計画

リーディングプラン

(総合的な事業展開を必要とする最も重要な取り組み)

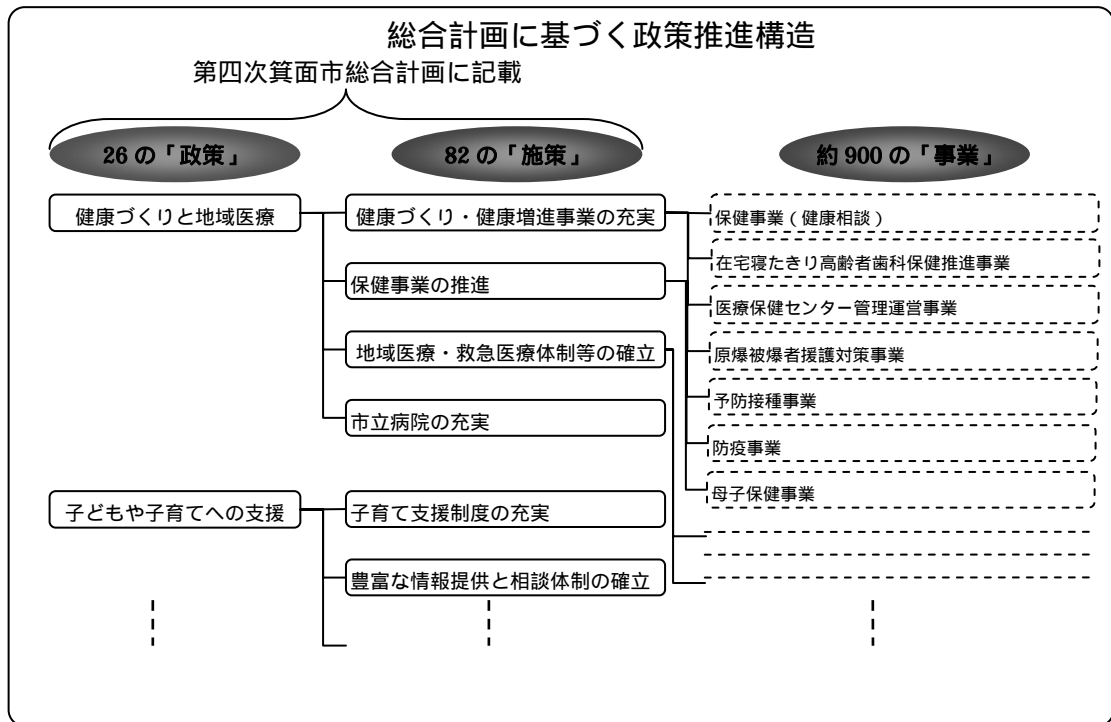
- ・山間・山麓部の保全と活用
- ・箕面新都心の整備
- ・子育て環境の整備と教育の充実

26政策の位置づけ 政策の基本方針、構成、内容

実施計画

施策(政策)ごとの目標を示し、その目標を達成するための具体的な取り組みを示す。総合計画期間を前期・中期・後期に分けて策定(第1期~第3期)

第四次箕面市総合計画は、具体的には、26の「政策」、その下の82の「施策」、そして約900の予算事業（予算編成の単位）によって構成している。



(2) 基本構想・基本計画の課題

基本目標に即した各部門ごとの動向と課題を整理し、それらに対する施策の基本方針及び施策の体系と施策内容を示しているが、総花的であること、かつ計画期間内の財政収支の見直しを行っていないため、どの施策を優先に実施するのか明確になっていない。

よって、実施計画により政策（施策）ごとの目標を示し具体的な取り組みを行ってきたが、厳しい財政状況の中で優先度による資源配分と実際の予算との間に乖離がある場合があった。

また、実施計画における政策の方向性に基づき行政評価により進行管理を実施しているが、基本計画において個別目標の達成に向けた成果指標等を設定しておらず、基本計画の達成度が評価できないなど進行管理に課題が残った。

(3) 第1期実施計画の特徴と課題【平成13年度～平成15年度】

施策目標の設定	<p>【特徴】施策の達成すべき目安として数値化できる目標を設定し、わかりやすく提示。</p> <p>【課題】施策を構成する個別事業の現状把握にとどまった。</p>
主な実施事業の抽出	<p>【特徴】事業名、事業内容、目標、年次計画を提示。</p> <p>【課題】個々の事業評価では、事業の抜本的な改廃にはつながりにくかった。事業数が多いため、大局的な視点での予算配分につながりにくかった。</p>
行政評価の導入	<p>【特徴】事業単位での行政評価の実施が、次年度予算に向けた事前評価としての役割を果たした。</p> <p>【課題】財政面の予算査定と事業評価（事前評価）の庁内作業が重複した。大局的な視点が希薄であった。</p>

(4) 第2期実施計画の特徴と課題【平成16年度～平成18年度】

「事業」から「施策」 中心へ	【特徴】施策に視点を置き、市のめざす方向性をわかりやすく提示。 【課題】事業の少ない施策は事業評価にとどまった。施策単位での改革、見直しにも規模的限界が生じてきた。
施策優先度の設定	【特徴】成果と資源配分にメリハリをつけ、施策の優先度を設定。成果は、施策ごとに成果指標と目標値を設定し、成果を測ることができた。 【課題】資源配分は、優先度における資源配分と実際の予算との間に乖離がある場合があった。
施策評価（事前評価） 事業評価（事後評価）	【特徴】施策評価は、専門的知識を有する委員で構成した「箕面市行政評価・改革推進委員会」の外部の視点を取り入れ、事前評価を実施。事業評価は、四半期ごとに事後評価を行い、速やかに公表した。 【課題】事後評価から事前評価を行う行政評価のサイクルがスムーズに流れなかった。

(5) 第3期実施計画の特徴

市民の意向把握	箕面市市民満足度アンケートによる、行政運営に対する市民の評価及びパブリックコメントでの市民意見を参考にした。
「施策」から「政策」 中心へ	行政運営の視点を「政策」中心とし、重点的に取り組むべき課題を明らかにして、市のめざす方向性をわかりやすく示した。行政評価制度で成果を検証し、成果目標を達成した場合には、大胆かつ弾力的に政策単位での事業の見直しを実施する。
政策の方向性の設定	各政策における成果と資源配分について方向性を設定した。 ・第2期実施計画の結果を検証。 ・26の政策における成果と資源配分を検討。 ・箕面市市民満足度アンケート結果による、施策に対する「満足度」、「重要度」、「市民ニーズ度」を判定。 ・パブリックコメント実施結果を参考。
成果指標の設定	政策の達成度を示す指標として、成果指標と計画期間終了年度（平成22年度（2010年度））における目標値を設定した。成果指標及び目標値の根拠を明確にし、指標の妥当性を示した。
市民協働	補完性の原則に基づき、市民と行政それぞれが役割分担を行うとともに、市民と行政が協働することにより、公共的なサービスの質の向上を図っていくことを進める。

2. 第四次総合計画の達成状況と課題

将来都市像を実現するために3つの基本目標を定め、その基本目標にそって26の政策を位置づけてまちづくりを進めている。

ここでは、その26政策の取組状況とその課題を整理することで、第四次総合計画の進捗状況を検証するとともに、今後どういった政策が課題となり、かつどの分野を重点的に取り組んでいくのか把握する。

【別紙資料4 - 1 第四次箕面市総合計画 政策別取組状況と課題】

【別紙資料4 - 2 第四次箕面市総合計画 主要事業年表】